

# < 超、金鑑賞経験 >

英語道弟子課程 弟子、T.A.

モーツァルト作曲: レクイエム 二短調 K.626

- 、銀座書齋、奥の聖域
- 、2015年6月2日(火)

## 1. 事前準備.

一週間をかけた「心の浄化」「心の整理」を行っていたため、なるべくインターネット、携帯電話、テレビに触れないように過ごしました。  
もちろん、やむおえない場合もありましたが、段々と触れれば、触れれば心は自分自身が汚れていくように感じるので、必要最低限にとどめるようにしました。

また、天気の良い早朝には、霊園を散歩し、公園の花を鑑賞しました。  
私は自然の草木や空気、土に触れると、その美しく生きる姿やその美しさから自分自身にある固定観念やエゴ、邪念などが一掃されるように感じました。

## 2. 超、金鑑賞経験

まず、「狭き門」をゆくりと一歩ずつ大勢に歩き奥の聖域へと入りました。  
奥の聖域にあるソファの真ん中に座ると、絵画の角度、ラッピング、音の大きさも全ての中に私が存在するように言わなければなりません。  
生井先生の美意識、精神性の中で心を開いて存在に意味をもち、一人では到達できない場所へと導かれるのだと思います。

また、K.H.さんから生井先生にプレゼントしたアロマオイルを生井先生がご使用くださり、香りも同じように、神聖な空気を作り、時間と場所を越えたところに、この身を置くことができたらいいなと思いました。  
生井先生と弟子であるK.H.さんにも感謝いたします。

レクイエムの金鑑賞中、音に合わせて目の前には「最後の審判」が  
 手に語りかけてくるようでして、この絵画を中心に、手は長い旅を  
 していき、そして、途中で時間の感覚もなくなり、長いようで短いような  
 不思議な感覚でして、手は、ある時は絵の中において、ある時には  
 ロウソクの光、手に音の一部や絵を眺める「個人」であり、感じました。

生井先生が「照明をひとつ消すとすると、生き生きとした人物が浮かび上がり、  
 絵に響き渡り、奥には青空が本当にあるようで、絵画ではなく、  
 実際の現場をこの目で見ていくかのようでして、「最後の審判」が描かれた  
 時代には、今のようには明るい光はなく、同じようにロウソクの光で、  
 このような神聖な場所です。金鑑賞されていると、目撃者を体験して、  
 手は「一人の人間として、今、同じように向き合える幸せを感じると共に、  
 この絵画の面前で感じる畏怖の念が、何ら変わることはない人間の  
 畏れを感じました。」

レクイエムの音は、「最後の審判」に登場する人間や天使たちが歌う  
 音楽に耳を注ぎました。死と生、生と死、両方とも同じであり、  
 生きているか、死んでいくか、どうに生きるのか、死んでいくか、生きるのかを  
 問うようでして、手に、レクイエムの美しい響きの中には、胸が苦しくなる  
 場面もありました。レクイエムは人間のことを歌い、哲学を歌い、  
 聖書を歌い、人間の根本を表現するものかもしないと思いました。

ロウソクは、真理に近いと思われる「最後の審判」の面前で、真の光に、  
 柔かい光を灯し続け、ある場所を照らせば、もう一方に影を落としています。  
 暗闇の中で光輝くやさしい光は、手の目撃現場を示す光のようを感じました。  
 ロウソクと同じように、手の命も、ほがたく一秒ごとに命を削り、削り、  
 理屈抜きで、手は熱く、真の光に、やさしい光を光輝かせようとして  
 感じました。同時に、影の部分があるから光輝くことが出来る、と  
 感じました。手から、暗い場所の中にいることに意味がある、と思ひました。

## 3. まとめ

生井先生の「厚意」で、レウイエウの前1年Tにてなく、全金監賞させて  
 いたして頂きました。お二人、生井先生が「月日月を一つ」消してリ  
 ロウリウの位置を変えてくれたこと、Tと、TのXメッセージを貸して貰えるように  
 工夫を凝らしてくださりました。生井先生の「西暦」により、その都度、  
 新Tには発見が感じられました。

音楽が終了しても、しばらくは身がけせんでした。実際は自分が立っている  
 場所がどこか現実味がなく、リ帯り道、簡単に乗って、乗り換える馬車で、  
 明るい管光の下で歩いていると徐々に、意識がぼろぼろしてきてしま  
 った。ふたは明るいのに、本当に大切なことは何も見えなかったこと  
 悲しくなりました。同時に、私も自身も見てたいいものが、本当に多いことに  
 気づかされました。

今回、自分の醜い、無知、与えられた生、月日隣にあると、Tと  
 Tの豊かさも（愛や佳話未熟な）私に感じられたのは、神聖な空を介して  
 くれた、生井先生の「指導」によるものであろう。二つから、私に与えられた  
 道へ進む時には口をきいてください。そして、本当の意味で生を全うできるように、  
 一生懸命に与えられた時間を過ごしたいと思っております。  
 事前に準備してくださったこと、貴重な時間をくれたことに改めて感謝  
 いたします。